

# 高尾山報

令和3年10月号

祈願の火  
秋宵柴燈大護摩供



# 法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(112)

年毎に

雲路まとはぬ

かりがねは

心づからや

秋を知るらむ

（『後撰集』凡河内躬恒）  
（毎年、雲の中を迷わずにやってくる雁は、自ずと秋の訪れを感じ取っているのだろうか）

秋が深まり行くにつれて、空気も一段と澄み渡ってきました。高い空を見上げれば、うろこ雲やひつじ雲などがフワフワと規則正しく並んでいます。

この歌に見える「雲路」とは「雲の中を通る路、鳥や月が通う路」のことです。上空を列をなして飛ぶ鳥の群れは、眼下に広がる秋景色を見渡しながら、私たちが目にすることのできない白雲の路を進んでいるのでは

うか。

「五色の雲」という言葉があります。仏教で五色は、青・黄・赤・白・黒の五色の色を表し、五色に輝く雲は、良いことの前兆として「彩雲」「瑞雲」とも呼ばれます。朝日や夕日に映えた雲に出会えたら、それは良いことが起きる前触れでしょうか。そう思えば、心も雲のように軽くなるような気がします。

五色の雲の先には、いったい何があるのでしょうか。遙か彼方の空を「雲外」と言いますが、仏教語「雲外」には「俗世間の外」という意味もあります。この世（世俗）の汚れに染まらない人を「雲外の鶴」と称するよううに、白く清らかな世界がどこまでも広がっているのかも知れません。

雲の道をめぐっては、次のような話が伝わっています。  
敏達天皇（五三八〜五八五）の御代に、大屋栖野古という男がい



空気も澄みゆく秋空には様々な雲が浮かぶ

ました。生まれつき心が清らかで、仏・法・僧の三宝を深く信じ、心から崇拜していました。

ある年の冬十二月八日、屋栖野古は難波に移り住み、そこで亡くなりました。死体には異香（良い香り）が漂っていました。天皇は、遺体を七日

間そのままにして、その功績を偲ぼうとなされました。

ところが、三日目にして屋栖野古は生き返ったのです。そして妻子に向かって「五色の雲があつて、虹の橋のように北にかかっていた。自然にその雲の道を進んでいくと、

## 折り折りの記 (146)

波多野 重雄

### 十月九日龍馬最後の手紙託す

其後芸州の船より「小蝶丸」二乗りかへ須崎を発し、十月九日二大坂に参り申候。則今朝上京仕候。此頃、京坂のもよふ以前とハよ程相変り、日々にござと仕候得ども、「世の中は乱んとして中々不亂ものにて候と、皆々申居候事に御座候」。先は今日までぶじなる事「幸便二申上候」。謹言々。

（慶応三年十月九日 梅太郎（龍馬））

上町本二丁目

坂本権平様 坂本龍馬

御直披

（次回に最後の近江屋事件を記す）  
（高尾山健康登山の会公長）

## 十八本山参籠(4)

### 秋参籠

#### 総本山仁和寺

仁和廣陵山門同

阿弥陀佛坐秋風

我看如来佛看我

同様心境金堂中

厚木市 荒井 一雄

秋深し  
寄進出来ず  
堪忍な

#### 秋、総本山仁和寺に参籠る

仁和寺様と広陵寺様は、

山門が全く同じ築り…

（世界遺産寺院の）

国宝阿弥陀如来様は坐す、

秋の風…

如来様を看、

如来様は我を看る…

同一の心境に到る

金堂（本堂）の中…

良い香りが立ちこめていて、いろいろな名香（仏に奉る香）を焚いているようだった。

道のほとりを見ると、顔が照り輝くほどの黄金の山があった。するとそこに、亡くなられた聖徳太子が待つておられ、一箱に山を登つていった。

黄金の山の頂には、一人の僧侶がいた。聖徳太子は丁寧な礼をし、「この者に仙薬（霊薬）を飲ませてください」と申し上げると、一つの玉を飲ませてくださったのだ。

聖徳太子は私に向かつて「すぐに家に帰つて、仏像を作る場所を掃除しておきなさい」と仰つた。そこで先ほど、の光の道を帰つてくると、いつの間にか生き返つていたのでよ」と語つたのでした。

（『日本霊異記』）

虹のように光り輝く雲の先には、仏さまの世界がありました。屋栖野古の遺体から良い匂いが放

たれていたのは、仏さまが住まう浄土を歩まれていたからでしょうか。

後に、山頂にいた僧侶は文殊菩薩の化身（仮の姿）であり、黄金の山は中国の五台山（文殊菩薩の聖地）であったと解き明かされています。

日頃から、仏法僧の三宝を敬つていた屋栖野古だったからこそ、仏法を世間に広めるという使命を、今一度お与えくださったのかも知れません。

煩惱の雲厚く

### 仏日の光晴れ難し

（譬喩尽）

（煩惱が深いと、仏の救いは得られない）

仏教において「雲」は、時に迷いの「煩惱の雲」として取り除く存在ともなり、時に「五色の雲」として仏さまのお姿を観じる機縁ともなります。心にかかった「業雲」（心身の乱れ）を消し去つて、五色に光り輝く「光雲」に包まれないと願います。

（栃木北部教区普濟寺）

## 秋彼岸先師墓地参り

九月二十三日





火中に撫木を投ずる



阿字門より入る佐藤御山主



火を渡りお加持を授かる



八王子交通安全協会の小杉会長(右)  
南大沢交通安全協会の田中会長



闇夜照らす浄火を勇壮に渡る御山主

八王子・南大沢交通安全協会主催  
秋宵柴燈大護摩供  
火渡り祭厳修

於・高尾山交通安全祈禱殿大広場(九月十一日)



高尾交通安全協会の皆様と共に、交通安全を祈願された



交通安全祈願碑前での法要



不動院から祈禱殿まで練行



一心に祈願する高尾交通少年団



高尾交通安全協会の小松会長

高尾交通安全協会主催  
交通安全祈願  
火のまつり厳修

於・高尾山交通安全祈禱殿大広場(九月四日)

# 高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

22

## 十二世堯永2 高尾山の杉

一号路の参道、権現茶屋を過ぎると、左手谷側に鬱蒼とした杉の巨木の並木が現れる。この界限は江戸時代から大杉原と呼ばれ、今日、高尾山を象徴する光景となっている。

### 大杉信仰

大杉の樹齢は七百年とも言われ、単純にきかれば俊源の中興より少し以前のことになるが、もとよりその時代の様子は皆目わからない。しかし、これらの杉は自然林ではなく、人の手によって植えられ、手入れされたものと思われる。杉は神社の境内林としておなじみの樹種であるが、神域と杉の関係について材料を拾ってみよう。

ジェームズ・フレイザーの『金枝篇』で知られるように、樹木に神が宿るとするは汎世界的な原始宗教である。我が国では茨城県稲敷市の大杉神社が、杉そのものを神体として崇拜の対象としている。長野県の諏訪大社の御柱祭は巨木(樅)を山から切り出し、境内に立てる祭としてよく知られる。つまり、真っ直ぐに伸び、天衝く樹木は神を降臨させて宿す依代という解釈だが、杉の木はそれにふさわしい。また、大杉が叢生する位置が谷筋の奥、谷頭に位置することにも注目したい。高尾山の杉は谷筋のスケールではないが、谷頭に杉が植林された光景を目にすることがある。

戦国後期に大規模治水工事の技術が確立される以前、耕地の灌漑を担ったのは、谷筋の湧水を貯水する溜池であった。山林に保水された雨水や雪解け水が谷筋から浸み出し、水量の多いものは川となるが、谷頭にダムを築いてやるとそこに水が貯まるしくみである。その下流に拓いた谷戸田が中世における耕地形態だった。その溜池の奥に杉林があるのは、恐らく保水力を高める工夫だと思われるが、水の神を祀る意味もあるだろう。琵琶滝のある案内川支流の上流部には兩宝山という神域があり、これは農業に不可欠な水をたらず神を祀る水分信仰の様相である。江戸時代、高尾山では雨乞神事が執行され、泉札という護符が授与されていたこともそれを裏付けていた。大杉原はその案内川支流の谷頭に位置するのである。往古、誰がしかがその場所に杉の苗木を植えたの

だが、それは琵琶滝の上流部に水分の神の降臨を祈願するものだったのかもしれない。

### 江戸前期の杉

さて、山林にまつわる高尾山の記録には、天正六年(一五七八)とされる北条氏照による竹木伐採禁止に関する文書がある。配下の將上による伐木を厳しく取り締まる内容で、高尾山の杉は為政者の手によっても厚く保護されてきたことがわかる。

時代は下って寛文元年(一六六一)六月付の文書には「申の年の大風に飯縄宮・薬師堂、そのほか末社ならびに寺破損つかつまり、そこで「建立のため高尾山の内に雑木売り申し」、「その跡へ苗木ならびにひこばえの木立て申し」とある。現在でもそうだが、山上に南面して伽藍を構える高尾山の堂宇は台風による損壊のリスクは非常に高い。修築資材なし費用

の工面に山内の木を充てるため、常日頃から苗木を植えて、不断の備えが必要であった。

江戸前期の山林の状況が、貞享三年(一六八六)の代官設楽太郎兵衛の手代若林藤助による杉の検分から判明する。この時、慶長七年(一六二二)の改帳にある御用木二〇五本が、九六本しか確認できなかった。薬王院は延宝火災の復旧時に伐採したことを述べているが、寺領の内ながら、先立って御用木と定められていた木は無断で伐採できない性格だったようだ。この改帳によつて高尾山内の杉の木数が次のように集計された。それによると、幹回り一丈(三メートル三センチ)以上が四本、直径九センチ以上の大木である。同じく幹回り九尺(二メートル七三センチ)が七本、以下、八尺(二メートル四二センチ)以上八本、八尺未満三尺以上が七本とある。この内の太いものが、

現在、樹齢七百年と言われる大杉として残されているのだろう。大杉原の杉は、文政一〇年(一八二七)の紀行文に二〇本と記される。貞享の改めは今からすると三三五年前のことなので、大杉の樹齢としては半分、今ではかなり太さを増していることになる。

太郎兵衛に届け出ている十一月になつて鉄砲を代官所に預けており、この預り証の名義は代官の交代があつて池田新兵衛手代山本源助とある。翌元禄二年に鉄砲所持の回答を出しているが、また代官交代があり、あらためて取調べがあつたようだ。この後、元禄六年(一四四年)と同様の届けが残り、幕府による鉄砲取締りの執拗なことがうかがえるが、度々の取調べに備えて以前からの文面を大切に保管したようだ。幕府は兵農分離のため農民の武器所持を禁じたが、自衛と害獣駆除を目的とする鉄砲所持は認めてきた。それでも治安維持のため度々所持が禁じられ、最初の文書の延宝四年時には関東一円にわたる大がかりな取締りがあつた。

その初見は延宝四年(一六七六)九月付の鉄砲所持願いの控である。山中にあるが故の用心と狼・鹿・猿に対する威嚇し鉄砲として使用したいとし、触頭寺院へ願ひ出ている。その一二年後、貞享五年(元禄元年・一六八八)二月に二挺の鉄砲所持を幕府代官設楽

つよう指示しており、その目的は以前の治安維持から、残虐な殺生を防止するためという変化が指摘されている。時の將軍綱吉と言えば、昔は「犬公方」のイメージで語られたが、近年はその評価も変わりつつある。いわゆる生類憐みの令というのは、条文を備えた成文法の体裁ではなく、個々のお触れや判例なども括りにした綱吉政権期の政策動向とも呼べるものである。実際には犬小屋と言うよりは犬屋敷という規模の施設を建てて野犬を收容するなど過剰な保護策があつたが、捨て子の禁令が度々発せられ、傷病者を捨て置かず介抱するよう指示するなど、人もまた「生類」として保護の対象だった。そして労働力として必要な馬と牛さらには、鳥や魚も含まれていた。

こうした政策の背景には綱吉の仏教に対する帰依から来る殺生禁断の思想、死や血に対する懼れから来る穢れの観念、暴力ではなく仁愛によつて

統治を固めるという徳治の思想などが指摘されている。※1 葉は切株から生える新芽のこと。 ※2 寺社奉行の配下として寺社行政を司る江戸の四ヶ寺

《参考文献》塚本学『生類をめぐる政治 元禄のフォークロア』(平凡社一九八三)、根崎光男『生類憐みの世界』(同成社、二〇〇六)



表参道の大杉並木は案内川支流の水源地に立つ

おことわり 本連載では史料の引用について、読みやすく原文に手を加えています。

久しく供養されるものであります。

に奉安し、大聖釈尊の聖骨と共に幾

主のご芳名を刻み、仏舍利塔内壁面

縁のしるしとして、霊名あるいは結

釈迦様と御信徒の皆様との尊いご結

中、参拝団の物故者慰霊の為に、お

の先祖代々供養の為に、あるいは講

この結縁牌懸仏は、夫々のご家族

百観音お砂踏霊場がございます。

御信徒各位には、釈尊との御勝縁

を結ばれますよう、仏舍利塔内に結

縁牌懸仏（かけぼとけ）をご納仏さ

れることをお勧め申し上げます。

### 高尾山仏舍利塔 結縁牌懸仏のおすすめ



尚、お申し込みの方には  
「御納仏回向之証」  
をお授け致します。  
(左の写真)



御納仏冥加料  
一体 拾万円也

- 結縁牌懸仏新規奉納者御芳名
- |           |      |      |      |     |     |     |
|-----------|------|------|------|-----|-----|-----|
| 武蔵野市      | 稲城市  | 相模原市 | 世田谷区 | 久喜市 | 町田市 | 札幌市 |
| 金子        | 山崎   | 長瀬   | 星野   | 大橋  | 戸沼  | 中央区 |
| 満         | 幹彦   | 弘美   | 智江   | 和雄  | 文子  | 国立市 |
| 品川区       | 八王子市 | 葛飾区  | 八王子市 | 石川  | 鷺谷  | 鷹谷  |
| (順不同・敬称略) | 伊藤   | 入山   | 多賀合  | 河内  | 弓立  | 石川  |
|           | 誠規   | 慎哉   | 誠規   | 光彦  | 昭彦  | 清子  |



佐藤御山主により回向文が奉読される

お釈迦様との尊い御縁を願って

仏舍利奉安塔懸仏総供養法要厳修(九月十六日)



懸仏を懸ろに供養する



法要に先立ち法話が行われた



仏舍利塔内を参拝する奉納者一同



講師の外山徹先生



高尾山と養蚕業の関わりも解説された

### 八王子市日本遺産認定記念講演会

講師 外山徹(明治大学博物館学芸員) 主催 高尾山慶賛会

九月十八日、昨年六月に八王子市が「靈氣満山 高尾山」の祈りが紡ぐ桑都物語」として、日本遺産認定を頂いたことを記念し、高尾山が保有する日本遺産の構成要素を幅広く周知して頂くことを目的とする講演会が開催され、約百六十名が参加されました。

講演会の講師は、高尾山報で「高尾山年代記」を連載されている外山徹先生(明治大学博物館学芸員)をお招きいたしました。外山先生は法政大学の大学院生時代から高尾山にまつわる古文書、「高尾山薬王院文書」の研究を続けられております。

講演では、東京都指定文化財である「奥之院不動堂」、「大師堂」、「仁王門」などの建築物の由来や、古文書研究から知見を得た奥之院不動堂の「木造不動明王及び二童子像」の由来についての新解釈、また、八王子の雅称「桑都」の由来となった養蚕業の隆盛を通して、高尾山の信仰が守られてきたことなどが解説されました。



侍衣装を着た慶賛会の皆様

### 慶賛会

#### 入会のすすめ

もともと仏教語で「慶賛」とは、仏教寺院、堂塔などの新築、修繕を祝賀する意味であります。高尾山慶賛会は、高尾山古来から伝承された年中行事を賛助し、御本尊・飯縄大権現様を尊信し、地域社会の親睦を図ることを目的としております。

高尾山は現在ミシユランニツ星を頂き、「心のふるさと祈りのお山、世界に冠たる高尾の自然」と称せられ、多くの参拝者が来られています。

ぜひとも茲に広く高尾山慶賛会員を募り、ご加入ご協賛を頂き、ご本尊様の威神力に浴されますよう祈念するものであります。

年会費 一口五千元

詳細は高尾山慶賛会事務局にご連絡下さい。  
〇四二六六一一一一五

## 聖天堂開扉法要

九月十一日(土)~十二日(日)

九月十一日、十二日の二日間、普段は内部が公開されていない聖天堂において、御信徒様へ堂内を公開する「開扉法要」が執り行われました。

このお堂には、薬王院の御本尊・飯縄大権現様の五相合体の御姿の一つである、大聖歎喜天(和合歎喜天)様がお祀りされております。

当日はお堂の外廻廊に僧侶が並び、一心に祈りを捧げられました。



## 院内散歩56

~薬王院の展示物~



書画  
「おくのほそ道」  
羽黒山

有難や  
雪をかほらす  
南谷

句・松尾芭蕉

書画・小田嶋十黄



## 高尾山 修行場めぐり

### 六波羅蜜修行塔

7

有喜苑の柴燈護摩道場前には、六波羅蜜修行塔が建立されており、六波羅蜜とは修行者が行うべき六つの修行徳目であり、「布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧」を意味します。

この修行塔では、自分の人生を「楽しく」「実りある」ものにするため、六つの徳目を心にしっかりと刻んで、中央の石車を回して下さい。

- 布施 物惜しみする心をなくして感謝の心で社会に尽くす道を行く
- 持戒 行いを正しくして悪事を成さず善事に励む道を行く
- 忍辱 怒り易い心を静め苦難に耐え忍ぶ道を行く
- 精進 怠け心を無くして努力を重ね、真実の道を行く
- 禪定 散りやすい心をまとめ安定させる道を行く
- 智慧 愚かな暗い心を慈愛の智慧をもって明るくする道を行く



# 観音菩薩の宗教

④6

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

## 観音菩薩の転生者としての聖徳太子 (その9)

寛永版『聖徳太子伝』の中心思想は、聖徳太子の本地を観音菩薩とすることである。そのことは全巻を通じ繰り返し述べられている。それとともに同書が重視するのは、日本が神代の時代から連綿と続く国であり、天照大神の裔が天皇となつて聖徳太子に至るまで途絶えぬ命脈を有することである。つまりは「古事記」「日本書紀」所伝の神話的世界観によつて聖徳太子が位置付けられているといふことである。前号に引用した天地開闢から聖徳太子までの連続性は、この他にも以下のように記されている。これまで同様、原文と拙訳を示す。

「それ我朝は、天神地神十二代は神の代にて、数千万劫をへて、仏法の名字をきかず。神武天皇より入皇はじまつて二十九代まで、なを日本に仏法ひろまらざり。しかるところに、無仏世界に聖徳太子とあらはれ、はじめて仏法をひろめ給ふなり。御舍利をさきとして、仏法のたつきいはれをあらはし給ふ。」

「太子伝」巻一、杉本校訂本三二頁）  
 「そもそも（天皇が治めて）我が国は、天神・地神が十二代いらした（時まで）は、神の時代であつたが、数千万劫（という長い時間）を経て、仏法の教義は聞かれなかつた。ところが無仏

の世界に聖徳太子が現れ、初めて仏法をお弘めになつた。（ブツダのお骨である）舍利を道案内として、（太子は）仏法の尊い謂れを世にお知らせになつた」

次の文では、日本古来の神々の本来の姿は仏教の仏菩薩であるとする「本地垂迹」の説を太子の言葉として明示している。

「しかるに、いま、仏法とうぜんのいはれに、わがてうに來り給ふなり。天地はじまつてよりこのかた、この国の衆生、神明の利生をたつとみて、本地仏菩薩の利益をしらず。我朝の一さいの神明の本地をたづぬれば、みな、往古の如來、久成の薩埵なり。時により所にしたがひ、仏菩薩とあらはれ、神明垂迹とげんじたまへり（中略）  
 しかれば、若も臣も、もるとともに、一さい神明の本地たる仏菩薩の利生を、むなしく、すつべからず。（後略）」（太子



聖徳太子は仏舍利を道案内に仏法の教えを弘めたとされる（高尾山有喜苑 仏舍利奉安塔）

伝」巻二、杉本校訂本五七〜五八頁）  
 「しかしながら、いま、仏法が東に伝わつた來歴によれば、（天皇が治める国である）我が国に（仏教は）やつて來られた。天地が始まつて以來、今に至るまで、この国の衆生は（日本古來の）神々が人々を救つて下さることを尊んではいたが、その神々の本来の姿である仏教の仏菩薩の御利益を知らなかつた。我が国の姿すべての神々の本来の姿

をたずねると、みな遠い過去の如來であり、遠い過去にさとりを開いた菩薩である。時と場所によつて仏菩薩として現れたり、神々の姿になつて出現なさつたりするので（中略）

そのため、天皇もその家來たちもすべて、あらゆる神々の本来の姿である仏菩薩の御利益を無駄にして捨て去つてはならない」  
 上記の文章において特筆すべきは、『太子伝』

が江戸期、寛文六年の刊であるにもかかわらず、「我朝」を神代に始まり神武天皇以來二十九代の天皇の国と強調していることである。「朝」とは天皇が政を行なう国を指す。寛文六年といへば、四代將軍徳川家綱公の治世で江戸幕府安泰の時代である。その後、六代將軍の時代には大儒者の新井白石が『読史余論』を著し、天皇に「變わり」徳川幕府こそが日本の正統政府たることを主張している。このような徳川武家政治の絶対的な力の時代に、「太子伝」が神代から神武以來の歴代天皇を中心においた「我朝」の國家観を述べていることは刮目すべきである。こうした國家観が記された理由は、聖徳太子の系譜が神代から続く用明天皇の嫡男であることを述べるためであつて、蓋し武家政治や幕府を否定するイデオロギーというこ

とではなからう。何よりも『太子伝』は皇族たる聖徳太子の系譜の記述が主題であり、そうであれば神代以來の永続性を語ることは避けられないからである。それに加えて『太子伝』の重要な特色は、『古事記』『日本書紀』の世界観である「皇國史観」と、日本仏教の歴史と思想が結合・融合していることである。いわば、伝記における神仏習合である。以下の文はそのことを明確に述べている。

「しかればすなはち、聖徳太子、この無仏世界の神國に御出世あつて、天照大神の三十八の御孫となり、日本國中の神冥に法業したてまつらんがために、大小乘の仏法をひろめ、和光の恵命をたすけてまつり給ふ。なんぞ、一切の神明は、仏・法・僧に歸して、本地の法業をうけ給ふぞや。せう、これあり」  
 「前の文を引き継いで）そうであればすなわ

ち、聖徳太子は（まだ）仏教が弘まっておらず）仏のおいでにならなかつた世界である神の国（である日本）にお生まれになつて、天照大神より数えて三十八代目の子孫となつて、日本國中の神々に仏法の喜びを差し上げるために、大小乘の仏法を弘め、（仏の）おだやかな光による恵みの命をお助けになつた。（そうであれば）すべての神々が（仏教のすべてである）仏法僧に歸依して、本来の姿である（仏の）教えの喜びをお受けになるのである。その証拠は次のようにある」（『太子伝』巻七、杉本校訂本二八五頁）

上記の主旨によれば、聖徳太子が仏教を弘めたお陰で、日本の神々はみな仏教の法業を享け、仏菩薩に歸依したとする。その証拠として次に多くの実例が列挙される。その初めが伊勢神宮の聖徳太子への歸依である。「まづ、伊勢天照大神、

聖徳太子をたつとみ、遺法の興隆をちぎり、百王の御治世をまもり給へり」（『太子伝』巻七、杉本校訂本二八五〜二八六頁）  
 「先ず、伊勢神宮の天照大神は、聖徳太子を尊び、仏の残した法が興隆することを誓つて、（日本の）百人の天皇の御代をお守りになつた」

この文に続いて、宇佐八幡・高野大明神・丹生大明神・熊野権現・蔵王権現・日吉七社の大明神・赤山大明神・摩多羅神・新羅大明神・稲荷大明神・祇園大明神などが弘法大師や伝教大師など、仏教の高僧より仏法を受けたことが次々に挙げられる。聖徳太子に關しては以下のごとき記述がある。  
 「（前略）松尾大明神は、聖徳太子・空也上人・智証大師・延明上人に般若の衣をこひ、法華一乘の法味をのぞきたまひければ、（中略）靈驗あらたに利生ますくさかん

なり」（『太子伝』巻七、杉本校訂本二八六頁）  
 「松尾大明神は、聖徳太子・空也上人・智証大師・延明上人に仏教の智慧の衣を請うて、（すべての衆生が平等に仏になれるとする）法華一乘の妙なる教えを望んだので、靈驗あらたになつて、人々を救ふことがますます盛んになつた」

松尾大明神とは元は松尾山に祀られる神で、八世紀初頭創建の松尾大社のご祭神である。その神が聖徳太子や、空也上人（拙稿「観音菩薩の宗教」⑥参照）、天台の智証大師・円珍、松尾上人とも称された延明上人などの高僧に仏法を学び、人々に利益をもたらしたという。ここには日本の神々が仏教に歸依して衆生済度したとする神仏習合の実例が列挙され、聖徳太子が神々の末裔でありながら、観音菩薩の権化にして、仏法により神々を導いたとする思想的根拠が述べられている。



ある山奥で木彫りをしている源作爺とタヌキの仙太のお話である。

日の出とともに爺の一日が始まる。深呼吸をすると、秋のさわやかな山の空気が身にしみる。今朝は粟を天日干しにした。爺は栗飯が好きだ。「今朝も熊より一足早く拾った。ハハハ」と独り満足そうに笑っていた。

そこへタヌキの仙太がやって来た。「爺は朝が早いなあ〜」「おつ、来たか。日が沈むまでの勝負だからのお」電気もガスもない夜はローソクでの生活なのだ。「十五夜だぜ。ほれ〜」仙太は束ねた秋の七草を爺に差し出した。「きれいだなあ！ 有難う」ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ

### 中秋の名月

湯沢町 富樫 あい子

おはなし散歩道  
源作爺と仙太(3)

キキョウ、ハギと「春の七草のように粥には出来ないが、月の光で愛でたいのお〜」「あさつてが中秋の名月だ。月見をしようぜ」と言い仙太は帰って行った。

名月の日。爺は朝から栗飯作りにてんてん舞っていた。仙太は、ススキと山で採った木の実や野菜のお供え物を縁側に準備した。「爺！ 里芋はどこだ？」「まだ畑じゃ〜」かまどの煙に混じって爺の声が返ってきた。「分かった〜」仙太は鎌をもって畑にいった。里芋は一株に子芋、孫芋と増えるので縁起物として収穫して感謝し、月へのお供え物だ。爺と仙太は、月見の準備に余念がない。仙太は掘って来た里芋やさつたま芋を洗い月見台にお供えした。爺も栗飯が出来ると縁側に来た。「二服しよ。今日は良い月見日和になる」と言い、

戸棚からマタタビの蜂蜜漬の瓶を出してなめた。「ほれ〜」と仙太にも瓶を渡した。黒光りしている漢方薬キハダもある。みな爺の手作りで、体に良いものばかりだ。「仙太よ。ワシは自然の恵みの物ばかり食べて来た。お陰で体も丈夫だが力仕事は歳にはかなわん〜」珍しく弱音を吐いた。「オレもそう思う時がある。でも爺が長年木彫りの合間に落ち葉を集めて堆肥を作り木々に「来年も頼むぞ〜」とお礼肥えをする。森を守る姿に小動物たちも感謝している」仙太は頭をさげた。「お前が手伝ってくれるから出来るんだ。気楽にお茶が飲める嬉しい友だ」爺は仙太の手を握った。「今夜は爺の死んだ体にならぬように立派に化けて来るぜ」と目を潤ませ森へ戻った。

夕方仙太が倅になつてきた。爺は立派に化けた倅、仙太郎に抱きついた。「会えて嬉しい。酒だ〜」声を詰まらせた。亡くなった倅に会えた気分が爺は夢うつつの時間を過ごしている。酒を酌み交わすうちに、酔いが深まり満月が二人を照らしていた。すると森の中を照らす月の光の中からボンポコ、ボンポコとタヌキバヤンが近づいて来る。仙太もタヌキの姿に戻り腹ツツミを始めた。森の中は小動物や鳥たちの大合唱が始まった。「仙太！ みんなに栗飯を振る舞ってくれ〜」わ〜い、わ〜い、みんな喜んで食べた。小動物たちは帰りに爺が作ったお礼肥えの堆肥をつかんで森へと去って行った。「あの子たちは爺が森を守ってくれるから、食べ物も豊かである事を分かっているんだ。オレも自然の恵みに感謝して爺と一緒に頑張るぜ〜」爺は月を見上げて微笑みうなずいていた。(おわり)

(挿し絵・小出茂)

# 高尾山小物語

42

## 有喜苑仏舎利泰安塔

絵・橋本豊治



### ペッペ氏により発掘された仏舎利

ネパール国境に近いインド北部の古墳で発掘された仏舎利は、タイ王国に寄贈された後、仏教国各国に贈られ、日本には明治三十三年(一九〇〇)に現在の覚王山日泰寺(名古屋市)に奉安されました。

男坂と女坂の合流地点から有喜苑への坂を登ると、大聖釈迦牟尼世尊(お釈迦様)の真身骨が奉安されており、白亜の「仏舎利奉安塔」が見えてきます。

この御真骨は、明治三十一年(一八九八)に英国人ウイリアム・ペッペ氏により発掘され、仏教国であるタイ王国(当時はシヤム)に寄贈された御真骨に由来します。

高尾山で祀られる御真骨は、昭和五年から六年にかけて少年団日本連盟(現在のボースカウト)がタイ王国を訪問したことに對し、タイ王室より日本の青少年が釈尊の精神により、正しく指導されることを念願して贈られました。

現在高尾山で祀られておりますのは、様々な候補地の中から、東京都内でありながらも、多くの自然が残る清浄な地であったため、昭和三十一年に現在の奉安塔に納められました。

### 高尾山の昆虫

#### ルリボシヤンマ

144



高尾山頂を悠々と飛翔する大型のヤンマを見つけた親子連れが、「あっ、オニヤンマだ」と叫ぶ光景に遭遇しましたが、実はオニヤンマではなく、ルリボシヤンマでした。

多種多様なトンボやヤンマの宝庫である高尾山ですが、高山性と思われる本種が確実に生息することは特筆され、リフト山上駅周辺でよく見かけます。

ルリボシという素敵な和名のとおり、は成熟すると腹部の斑紋が鮮やかな水色を帯びて、とても綺麗です。

やや寒冷な湿原や、水性植物が多い小さな池等を好む傾向があり、本種には北海道や高標高地に多産するというイメージがあります。

大型のヤンマの仲間には黄昏飛翔を好む傾向がありますが、本種に関しては昼行性のようで、日中に活動することが知られています。

外見がよく似た近似種に、最大級のヤンマであるオオルリボシヤンマがいて、ルリボシヤンマよりも大きく、斑紋の水色がより鮮やかですが、飛翔中だと見分けが難しいです。

高尾山ではオオルリボシは記録されておらずルリボシのみですが、都内では稀なヤンマに出会えるのも、お山の豊かな自然ならではこそ感じます。(文松島 孝 撮影沼田 健次)



# 高尾山 季節散歩

## 暦の言葉 「七十二候」

### 「こさめときどきふる」

十月二十八日〜十一月一日頃  
 「曇」とは、パラパラ降る小雨を意味します。秋の空模様はさつと小雨が降ったかと思えば、すぐに止むことが多いものです。  
 秋に降るこのような雨は「秋時雨」とよばれ、冷たく、寂しげな風情であり、やがて来る冬の訪れを感じさせてくれます。

## 今月の風物詩

### 〇〇の秋

夏が終わりに近づくと、「〇〇の秋」という言葉が聞こえてくるようになりまます。例えば芸術の秋、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋等、様々な秋があります。  
 蒸し暑い夏に比べると秋は過ごしやすく、体力気力共に余裕があるので、様々なことに取り組む余裕があるからでしょう。

## 健康登山者投稿作品

### 季節の絵手紙「螢草との出会い」

せと ちえこ



高尾の山を彩る草花たち

## 螢草 (ゆづり)

大好きです

2021年夏に

## 一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

### 百五段 すぐに助言を求めないこと

迷った時には自分だけで考えず、他人に相談することは大事なことです。しかし、相談の前に自分で考えを整理することが必要です。自分の考えがまとまっていないと、相手も何を助言すれば良いのか分からなくなってしまいます。

## 健康登山者投稿

### お山と天狗

京都市 池田 琴音

入院していたおじいちゃんのために、この絵を書きました。この絵は、高尾山の天狗をイメージして書いた絵です。  
 天狗の絵の後ろの山は、二つだけオリジナルの山を書きました。「カッパ山」と「女の子山」です。  
 おじいちゃんにも、天狗や山などを楽しんでもらいたいなと思います。



## いけばなの心 ⑳

華道教授 佐藤 宗明

十月になると本格的に秋の花材や、冬を感じさせる花材が増えてきます。  
 私はこの時期になると、実物の花材を使った作品を生けたくになります。  
 今回は「真」に白雲木を使った生花正風体三種生を懸崖という形で生けてみました。

生花正風体は地面から天に向かって真っ直ぐに伸び立つ姿を基本としています。しかし、懸崖の形というのは平らな地面から伸び立つ姿を表現したものではありません。字の通り、崖の様な急峻な地面から生えて成長していく植物の姿から発想された形です。さらに、三種生では使用する花材の美しさを融合させて新

しい美を見出ししていきます。  
 生花は床の間に飾る事が多かったため、床の間に合ったサイズととして多く生けられます。た

だ、床の間にお花を飾る、というのは多くの人にとって、日常とは言い難くなってきました。お花を飾る場所というと玄関やリビングと言った空間でしょうか。そんな日常に飾る生花は小さく、かわいいものがあるても良いものです。



## いろは

### 天狗の落し文 ㉑



### り 力量つねに保てるように

### 精進努力をも重ね

高い能力を最初から持つ人は一人もいません。確かに従来の才能や適正もあります。それでも、有利なのは、最初の間だけです。能力を高めるためには、自分から能力を鍛えることが大切なのだと思います。  
 高い能力はその人の努力の結果なのであり、努力はやる気さえあれば誰にでもできます。  
 しかし、努力を止めると次第に実力は鈍ってしまいます。どんなに実力をつけても、その力を維持できるように自分を鍛え続ける気持ちが大切です。



花材：白雲木、日々草、アスパラガス

# 御山主入山慶祝の集い、大般若経転読会法要 八王子車人形特別公演 開催のお知らせ

佐藤御山主が、昨年十二月に高尾山中興三十三世の法燈を継承されたことを記念する慶祝法要として「大般若経転読会法要」を、来たる十一月二十一日(日)に厳修致します。

大般若経とは、唐代の玄奘三蔵(三蔵法師)が「般若経典」を集大成した一大叢書で、全十六部六百巻に及び、国家安穩と除災招福などに有益であるとされるため、古くから宗派の別なく勅令によりこの転読が行われております。

法要後には有喜閣大広間において、佐藤御山主による「記念法話」を行います。法話に続き、八王子市が昨年「霊気満山 高尾山」人々の祈りが紡ぐ桑都物語」として、都内唯一の日本遺産に認定されたことにちなみ、日本遺産の構成文化財である、「八王子車人形の西川古柳座公演」を行います。八王子車人形西川古柳座は国・選択無形民俗文化財、及び東京都指定無形文化財に認定され、日本のみならず、世界各国で活躍されております。紅葉と霊気に満ちた高尾山で伝統文化に触れてみてはいかがでしょうか。

**日時** 十一月二十一日(日) 十時 山上信徒休憩所集合

**場所** 高尾山薬王院大本堂・大本坊有喜閣

**募集人数** 六十名

**参加費** 一万円(食事代・ケーブルカー乗車運賃を含む)

**予約方法** ハガキに必要事項(郵便番号・住所・氏名・電話番号)を明記して左記までお送り下さい。

※お電話でのお申込みは承りかねます。

〒一九三・八六八六 八王子市高尾町二七七  
大本山高尾山薬王院 信徒部



西川古柳座による八王子車人形公演



御山主による記念法話を行います



当山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。

御護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様への祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、お供物と共に自宅等に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。

## 御護摩修行のおすすめ 皆様の諸願成就を祈願する

### 郵送御護摩の申し込み

当山では、御護摩修行に参加できない方々のために、御護摩札の郵送をお受けしております。

手紙やFAXでのお申込みをお願いしておりますが、高尾山薬王院の公式ホームページからお申込み頂けますので、是非ご利用頂きますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先  
TEL 〇四二・六六一・一一一五  
FAX 〇四二・六六四・一一九九  
「郵送御護摩係」まで

### 杉苗奉納

古来より高尾山の御信徒は、自分のお願いが成就した時に感謝とお礼の意味を込めて、苗木を奉納するという習慣がありました。

今日でも、お杉苗奉納は続いており、参道の大杉原には、お杉苗奉納をされた方々の芳名板が、板塀のように並んでおります。

毎年十二月十日までに、二万円以上を御奉納頂いた方のお名前を、翌年一年間掲示させて頂きます。

## 七五三身上安全祈願

「七五三」とは、皆様方の可愛いお子様が、これから健康にすくすく育ちます様にと、身上安全の願いを込めて寺社にお参りするという行事です。

高尾山でも御本尊・飯繩大権現様の御加護を願い、毎年多くのお子様がお参りに訪れております。十月・十一月の間、山上「御護摩受付所」にて、「七五三祝い子育て祈禱」を受け付けております。どうぞ皆様で御米山なされますよう、ご案内申し上げます。

※十一月中の土・日・祝日には大変な混雑が予想されますので、時間に余裕を持って早めの御米山をお勧めしております。

## 新型コロナウイルスに対する安全対策

当山では、新型コロナウイルスの感染予防を図る為、受付や御札授与所における飛沫感染防止ビニールガードの設置、境内各所への消毒液設置、また職員のマスク着用などの対策を実施しております。

御来山の皆様方にはお手数をお掛けしますが、当日ご自宅を出る前に検温して頂き、体調が優れない時や、不安な時は御来山をお控え下さいませようお願いします。

尚、最新の情報や行事の実施等につきましては、薬王院のホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。



# 登山だより

## 十一月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

五日、十七日、二十九日

弁天様御縁日

二日、二十二日

御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

二十七日

月例写経会

(十三時山麓不動院)

二十八日

奥之院開扉供養

(十時奥之院)

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯縄大権

現様の日々の御加護に感

謝し、沢山の御供物を捧げ

て御本尊様威光倍增の為、

御供養申し上げる法要で

す。

皆様の御志納を受け付

けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し

出下さい。尚、法要終了

後に百味のお札を授与致

します。

毎月二十二日午前九時勤修

御志納金 一口三千円以上

**毎日の  
お護摩奉修時間**  
(4月15日～10月31日まで)

午前5時30分  
" 9時30分  
" 11時00分

---

午後0時30分  
" 2時00分  
" 3時30分

ご講中・団体等御相談  
下さい。

## 秋の特別精進料理 「もみじ膳」のお知らせ

本年も毎年ご好評を頂いております、秋の味覚を楽しむ特別精進料理「もみじ膳」を実施致します。大広間でのお食事となり、ご予約無しでお召し上がり頂けます。食材に限りがありますので早めの来山をお願い致します。

**期間** 十月十二日(火)～十二月十日(金)  
**営業日** 平日のみ

(団体予約多数の場合は実施しない  
こともありますのでご了承下さい)



特別精進料理  
「もみじ膳」 2,900円  
(11:00より受付開始)

※料理写真はイメージです。

※ご来山の際には、  
事前にホームページを  
ご覧になるか、お電話  
などで御照会下さい。

## 高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)

- |              |            |            |           |            |            |             |           |           |            |          |          |           |           |           |           |           |          |           |           |           |
|--------------|------------|------------|-----------|------------|------------|-------------|-----------|-----------|------------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 高尾山薬王院ホームページ | 高尾山健康登山者一同 | 八王子市 天野 章雄 | 日野市 柴田 利男 | 八王子市 秋山 重男 | 相模原市 大石 昌秀 | 春日部市 鈴木 智恵子 | 足立区 鈴木 俊夫 | 鹿沼市 松本 寛子 | 八王子市 永井 照森 | 富里市 森 照森 | 八王子市 天 城 | 日野市 池田 久恵 | 新座市 彰山 粧麗 | 府中市 永田 新一 | 大垣市 安藤 幸二 | 八王子市 増山 進 | 小平市 関 道雄 | 藤岡市 内山 和枝 | 比企郡 戸口 朋幸 | 伊丹市 岩本 敏之 |
|--------------|------------|------------|-----------|------------|------------|-------------|-----------|-----------|------------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|

高尾山薬王院ホームページ  
<https://www.takaosan.or.jp>

発行所  
東京都八王子市高尾町2177  
大本山  
高尾山薬王院  
郵便番号 193-8686  
電話(042)-661-1115(代)  
FAX(042)-664-1199  
発行人 菅谷 秀文  
編集人 菅井 倫浩  
印刷 ヒラツカ印刷社  
毎月1回1日発行  
1部50円